

## 「花粉症を持つ人の生活実態調査」概要

### 【はじめに】

本調査は、マルチクライアント方式の調査で実施しております。

したがって、本調査のデータは参加した複数企業の共有財産です。

ここでサマリーとして発表していますのは報道用に概要をまとめたものであり、これ以上の詳細データは公開できないことをご了承願います。

### 1. 調査の目的：

本調査は花粉症市場をターゲットとしたビジネスに役立てるため、花粉症の症状を持つ人々の生活実態を把握し、今後の花粉症市場への積極展開に向けた生活者情報の収集及び、花粉症対策としての処方薬、市販薬の利用状況を把握することを目的として実施した。

### 2. 調査対象と対象者数：

ヘルスケア・アンケート会員のうち花粉症の症状\*を持つ人1000名(全国)を対象としてアンケートを実施した。

\*対象者は自己申告による「花粉症」の症状を持つ人であるため、「患者」という言葉は本調査内では使用していない。

	16-19歳	20代	30代	40代	50代	合計
男性	40	120	120	120	99	499
女性	40	120	120	119	102	501
合計	80	240	240	239	201	1000

### 3. 有効回収数：

854サンプル(回収率85.4%)

### 4. 調査方法：

郵送配布・回収(アンケート票による自記入式)

### 5. 調査実施期間：

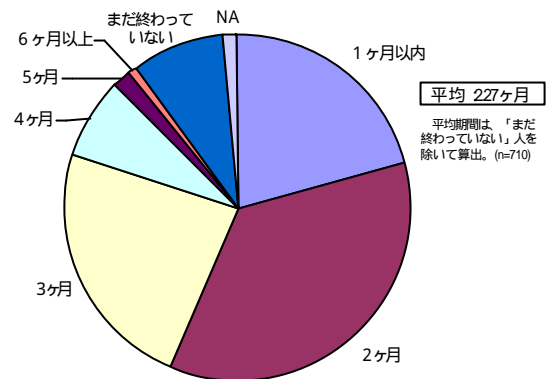
2001年8月10日(金)～8月27日(月)

**花粉症の発症期間は平均で約2ヶ月**  
**花粉症の人のほぼ全員が鼻と目に症状が出ている。**  
**具体的な症状は「目のかゆみ」、「鼻水」、「くしゃみ」**  
**がトップ3**

### 花粉症の発症期間

花粉症の症状がある人の01年の花粉症の発症期間をみると、平均で2.27ヶ月（約2ヶ月と1週間程度）となっている。最も多いのは「2ヶ月」と答えた人で、「1ヶ月以内」と合わせると半数以上の人の発症期間が2ヶ月以内となっている。

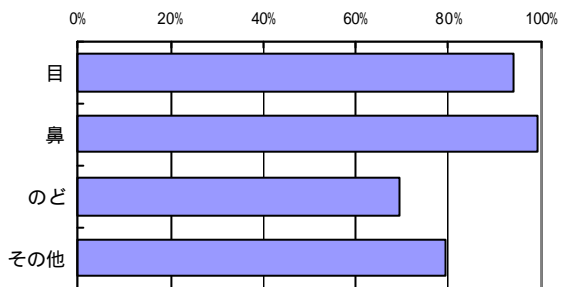
SQ2-1.発症期間 / SA(n=789)



### 症状の出た部位

具体的に症状が出ている部位をみると、「鼻」が最も多く、次いで「目」、「のど」の順となっている。このように花粉症の症状のある人のほとんどが「鼻」と「目」に症状が出ると答えている。

Q5.具体的な症状 部位別(n=789)

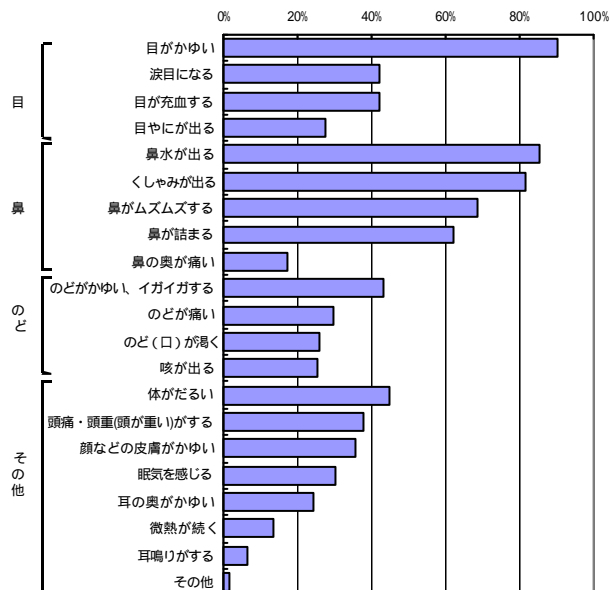


### 具体的な症状

具体的な症状をみると、「目がかゆい」と答えた人が最も多く、次いで「鼻水が出る」、「くしゃみが出る」の順となっている。

このように症状としては「目がかゆい」が最も多いが、症状の出る部位としては「鼻」が最も多くなっている。

Q5.具体的な症状 / MA(n=789)



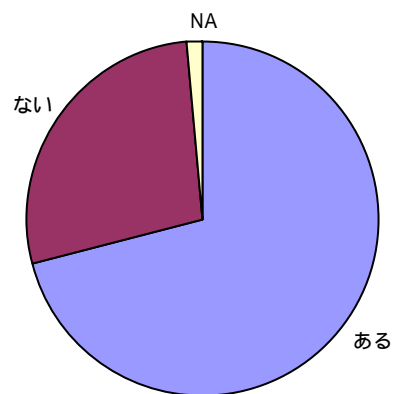
この調査は01年8月に全国の16～59歳の花粉症の症状のある男女を対象に行った調査です。

**約7割が医療機関で花粉症の診断を受けている。  
花粉症原因の7割以上が「スギ」花粉と診断されている。  
全体の4割近くは花粉症以外にアレルギー性鼻炎がある。**

### 医療機関での診断経験

医療機関で「『花粉によるアレルギー』である」という診断を受けたことがあるかについてみると、花粉症の症状がある人の約7割が医療機関で花粉によるアレルギーという診断を受けたことが「ある」と答えている。

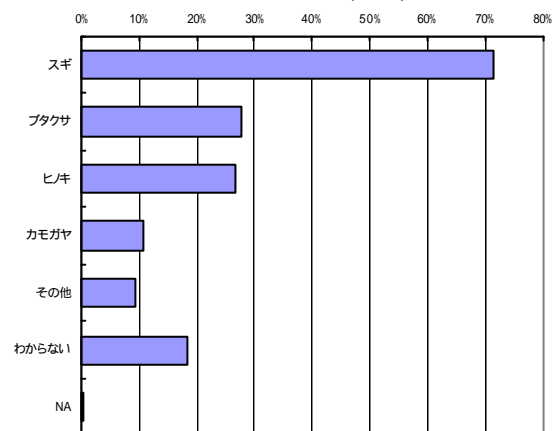
F5.医療機関での診断経験 / SA(n=854)



### 花粉症の原因（診断結果）

医療機関での診断経験が「ある」人が、何の花粉が原因と診断されたかについてみると、「スギ」が最も多く、次いで「ブタクサ」、「ヒノキ」の順となっている。このように「『花粉によるアレルギー』である」という診断を受けたことがある人の7割以上が花粉症の原因が「スギ」花粉と診断されている。

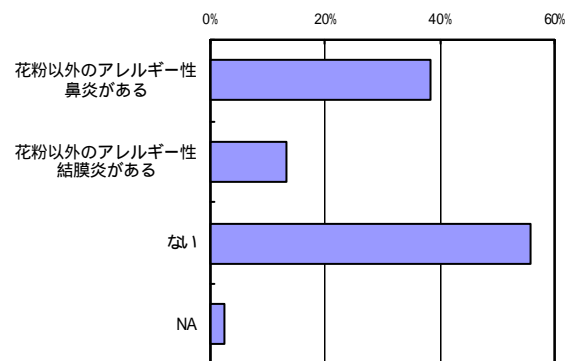
SF5-1.花粉の原因 / MA(n=606)



### 花粉症以外のアレルギーの有無

花粉症以外に目や鼻で他のアレルギー症状が出る可能性があるかについてみると、全体の4割近い人が「花粉症以外のアレルギー性鼻炎がある」と答えている。一方「ない」と答えた人も半数以上の結果となっている。

Q40.花粉以外のアレルギーの有無 / MA(n=854)



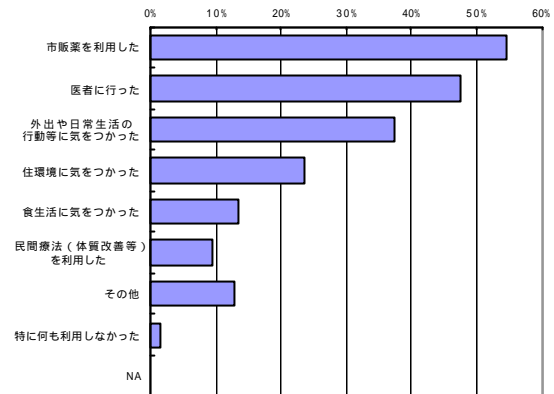
この調査は01年8月に全国の16～59歳の花粉症の症状のある男女を対象に行った調査です。

**全体の半数以上が花粉症対策として市販薬を利用。  
薬を処方された人の4割以上が副作用の少ない薬を要望。  
全体の半数近くが花粉症対策として外出時に「あめ」を携帯。**

## 花粉症のための対策方法

01年に花粉症のための対策としてとった方法をみると、「市販薬を利用した」人が最も多く、次いで「医者に行った」、「外出や日常生活の行動等に気を使った」の順となっている。このように花粉症の症状がある人の半数以上が花粉症対策として市販薬を利用している。

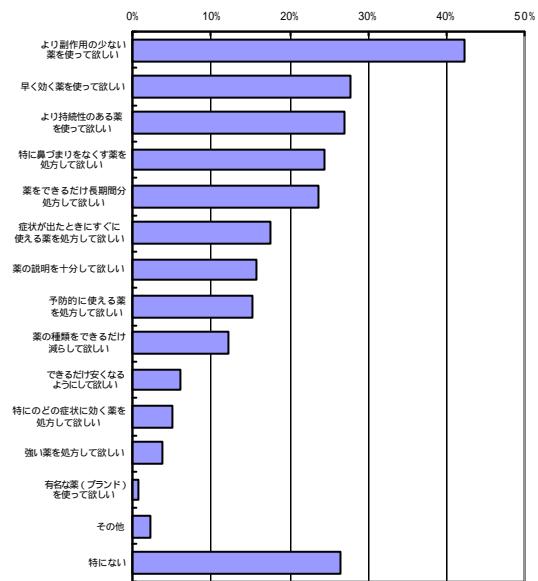
Q2.花粉症のための対策方法 / MA(n=789)



## 実際に医師に伝えた要望

医療機関で医師から薬を処方された人が、医師にどのような要望を伝えたかについてみると、「より副作用の少ない薬を使って欲しい」が最も多く、次いで「早く効く薬を使って欲しい」、「より持続性のある薬を使って欲しい」の順となっている。このように医師から薬を処方された人の4割以上が副作用の少ない薬を要望している。

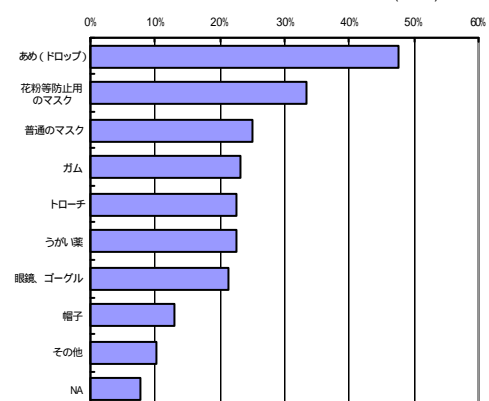
SQ11-1.実際に医師に伝えた要望 / MA(n=369)



## 花粉症対策として外出時に携帯した物

花粉症対策として外出時にどのような物を身につけたり携帯したりしているかについてみると、「あめ(ドロップ)」が最も多く、次いで「花粉等防止用のマスク」、「普通のマスク」の順となっている。このように全体の半数近くが花粉症対策として外出時に「あめ(ドロップ)」を携帯している。

Q39.花粉症対策として外出時に携帯した物 / MA(n=854)



この調査は01年8月に全国の16~59歳の花粉症の症状のある男女を対象に行った調査です。